



コマユミ 【ニシキギ科】

北海道から九州までの山野に分布する高さ3mほどの落葉低木。府中市では浅間山、武蔵台緑地に自生していると思われる希少種。花は5～6月に6～7mmの淡緑色の小さな花を葉腋（ようえき）に数個つける。晩秋に紅葉した葉と橙赤色に熟した果実はモミジに匹敵するぐらい美しく愛好家に人気がある。同属のニシキギに酷似しているが、枝に翼があるのがニシキギで容易に見分けることができる。

▲浅間山で撮影

環境保全活動センター開設10周年

開設10周年にあたって

府中市長 高野 律雄



このたび、府中市環境保全活動センターが開設10周年を迎えましたことは、本活動に携わっていただいております多くの市民、事業者及び関係方々のご尽力の賜物と感謝申

しあげます。

当センターは、本市における環境基本計画及び環境行動指針を推進するため、市民・事業者・行政が環境保全に関する学習機会並びに交流及び活動の場を目的として、平成23年12月に開設いたしました。

開設後は、当センターを中心に、「浅間山自然保護会」、「府中かんきょう市民の会」、「ひな草の会」及び「かんきょう塾ネット」など、市民団体の方々との協働により各種事業を実施し、市民の皆様身近な生活の自然環境から地球規模の環境問題まで興味・関心をお持ちいただく機会の創出等を中心に活動を行ってまいりました。

今日、私たちを取り巻く自然環境は大変な危機に直面しております。二酸化炭素やメタン等の排出量増加による地球温暖化、またそれに伴う異常気象や生物多様性の保全危機等、すでに私たちの生活にも多大な影響が出ております。また、国ではこの環境変化に対応するため、新たなエネルギー基本計画に、2030年までに二酸化炭素排出量の大幅な削減を推進していくことや2050年にカーボンニュートラルの達成等が盛り込まれる予定となっております。

本市におきましては、「第2次府中市環境基本計画」を基に各施策を推進しておりますが、次期府中市環境基本計画においては、SDGsを組み込んだ持続可能な社会を目指し、より一層環境問題に取り組んでいく所存でございます。

当センターはその礎として、市民・事業者・行政を結びつける役目を果たし、府中市における環境保全活動を実践する体制を整え、よりきめ細やかで必要な活動を行い躍進していくことを願っております。

結びに、府中市環境保全活動センターが、市民・事業者及び関係方々と協働し、またその保全活動の要として、更なる環境の改善に寄与することを念願し、私の挨拶とさせていただきます。



小学校での環境学習支援活動

特集 府中市環境保全活動センターの活動紹介

府中市環境保全活動センターは、「府中市環境基本計画」にその前身となる「環境保全活動の支援センター」として設置する構想があり、その後、環境推進協議会での検討を経て、「府中市地球温暖化対策地域推進計画」の策定を行う中で当センターを開設することとなり、平成23年12月1日に府中駅北第2庁舎に開設しました。

当初、考えられていた当センターの主な役割は次のとおりです。

- ① 市民や団体などの交流及び諸活動の促進や援助
- ② 講演、講座及び研修の実施
- ③ 図書及び資料の収集とその利用
- ④ 様々な相談
- ⑤ 調査及び研究
- ⑥ センターの運営他

開設後、運営をしていく中で市民からの要望を参考に見直しなどを行い、現在は環境講座や環境学習の実施、市民等の環境活動の支援、環境関係の図書・資料の収集と公開に特に力を入れています。

当センターの環境講座で中心的なものとして「かんきょう塾」があります。この講座は年間を通して連続して開催するもので、講義や見学と並行して、講座の参加者でグループを作り、それぞれの研究テーマを基にグループで調査や考察を行い、講座の最終回でグループごとに発表を行います。これらの講義や作業を通して、環境について学習したり、グループ活動の基礎を身に付けます。さらに、この講座を修了された方が当センターの活動・運営に携わっていただく、サポーターとして参加もされています。この「かんきょう塾」は年間6～8回の講座を開催し、これまでの受講者は延1,200人になります。



▲グループ研究が東京都公園協会主宰の「公園協会賞」の優秀賞を受賞しました

▲当初、開設した府中駅北第二庁舎の当センター



▲活動センターの主要講座「かんきょう塾」



▲「かんきょう塾」の施設見学



▲「かんきょう塾」の屋外講座



▲「かんきょう塾」のグループ研究発表



▲緑の中でのクラフトイベント



▲木の実や枝で作ります



▲親子でエコな調理に挑戦



▲完成した料理



▲パルトホールでの公開講演会



▲環境まつりでの活動センターブース



▲大勢での打ち水イベント



▲コロナ禍での打ち水相談所(当センター)

当センターでは、子ども向けの講座として「親子かんきょう塾」を開催しています。この講座は、親子で体験講座や施設見学をするもので、子ども達が環境について関心を持ち、学校などの環境学習につながるように考えています。

春と秋は、浅間山公園、武蔵台公園の木々の下で木の実や枝を使ったクラフト等を行い自然環境を体感します。夏は交通機関を使い普段あまり行くことのない施設などを見学します。

また、秋の終わりには親子が協力して省エネ、食品ロスなどについて学びながら調理する体験講座も開催しています。このような親子講座は、年に1~4回開催していますが、これまでの参加者は延500人となります。

さらに当センターでは、小・中学校の環境学習授業の支援も行っています。多摩川や浅間山の自然をはじめ、府中の環境について市民のサポーターが直接説明をしています。子ども達にとっても近所のおじさんの話を聞く感覚で親しみやすいことから理解しやすいようです。

講座以外の活動として、年1回、一般の市民に向けて公開講演会を開催しています。その時の環境に関する話題等について第一線の研究者や専門家の方に講演をしていただき、テーマを掘り下げていただくことで環境について興味を持ていただきます。

また、地球温暖化やヒートアイランド対策PRの一環で「打ち水」を夏のイベントとして開催しています。こちらも大変多くの方に参加していただきました。

この他に環境保全の周知・啓発と当センターのPRを兼ねて「府中環境まつり」、「府中市民桜まつり」等に参加しています。

これからも、当センターの活動にご理解・ご協力をお願いします。

知っていますか？ 地球温暖化問題のこと

今年の8月にIPCCから、地球の温暖化について警告する報告書が公表されました。これによると人間の活動が気候変動を引き起こし、極端な気候現象を発生しやすくしていることが疑う余地のないこととしています。そして、世界全体の温室効果ガスの排出量を早急に抑えることが求められています。現在、世界各国では温室効果ガスの中でも一番排出量の多い二酸化炭素を、2050年を目途にゼロにする目標を表明する動きがあります。

日本でもカーボンニュートラル達成に向けたロードマップが提示され、2050年までに達成できるように目指しています。

◆用語の説明

< IPCC 報告書(第6次) >

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が地球の温暖化について危機的状況にあると明確にした報告書。1990年からこれまでに5回公表されていますが、今回は6回目で科学的根拠が示されています。さらに、今後の気温上昇を押さえるための対応の違いにより、気温上昇の違いを示したシナリオも公表されています。

< 温室効果ガス >

地球の大気中にたまると地球の熱が宇宙に放出されず大気中に熱が蓄えられるため、気温が上昇する現象を引き起こすガス。主なものに二酸化炭素やメタン、フロン等があります。

< 再生可能エネルギー >

太陽光、風力、地熱、水力、バイオマスなど二酸化炭素やそのほかの温室効果ガスを発生することなく永続的に利用できるエネルギー。

< カーボンニュートラル(CN) >

温暖化の大きな原因となる温室効果ガスの中でも、二酸化炭素(カーボン)の大気中への排出が大きな割合を占めていることから、これを2050年までに排出量と回収量の調整により実質プラスマイナスゼロ(ニュートラル)にする取組のこと。

< 脱炭素型社会 >

カーボンニュートラルの状態が維持できている社会で、似たような言葉として「低炭素社会」がありますが、これは二酸化炭素の排出が続いていることから、地球温暖化を止めることができません。二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることで、地球温暖化を止めるスタート地点に立つことができるのです。

< SDGs >

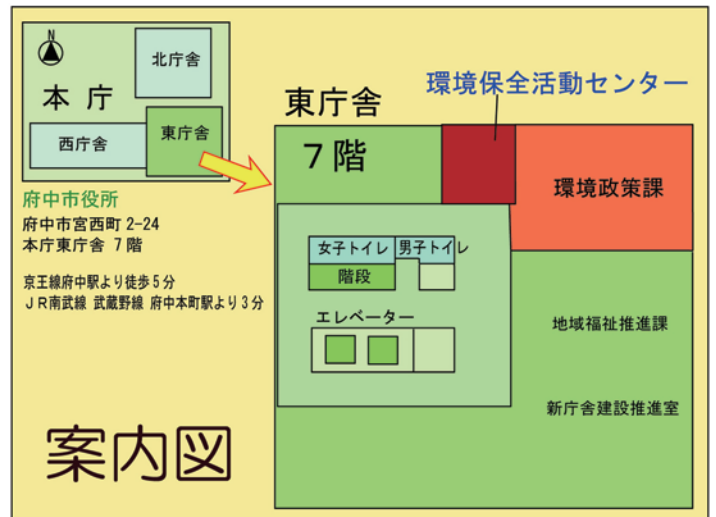
国連サミットで採択された2030年までの国際目標。地球規模の問題を解決するために誰ひとり残すことなく、持続可能な17の開発目標の達成を目指します。17の目標には、さらに具体的なターゲットが全部で169設定され、これをクリアしなければなりません。



ふちゅこまからのメッセージ
新型コロナウイルスはまだまだいるぞ！
予防対策はこれからもしっかりとすこま！

府中市環境保全活動センター

- 所在地 〒183-8703
府中市宮西町2丁目24番地
本庁東庁舎7階
- 電話番号 042-335-4410
- 利用時間 午前9時から午後5時
- 休業日 土曜日、日曜日及び祝日、年末年始
(12月29日から1月3日)
- ホームページ <http://fuchu-kankyo.com/>
- メールアドレス mail@fuchu-kankyo.com



編集後記

ここ数年、台風の大型化、大雨による洪水や土砂崩壊等の大きな自然災害が発生しています。その原因は温室効果ガスの増加に起因する地球温暖化にあると云われています。

地球温暖化の弊害は、自然災害による被害のほか猛暑による熱中症やマラリヤ、テング熱等の伝染による健康被害にまで及び、将来、地球上の生命体の危機に陥るかもしれません。

温室効果ガスとは二酸化炭素、メタン、フロン、亜酸化窒素等で構成されており、その中でも二酸化炭素が80%を占めています。したがって二酸化炭素の排出を抑えることが温室効果ガスの減少につながります。

私たち人間は、快適な生活を追い求めるあまり資源を無駄使いしていないでしょうか。今こそ私たち一人ひとりが生活を見直し地球温暖化防止に取り組む時でしょう。
(編集委員 Y・Y)

発行日 令和3年10月25日

編集・発行 府中市環境保全活動センター
広報活動部会

次回発行予定 令和4年1月

